



「無言館」は窪島誠一郎氏により、信濃デッサン館の分館として平成9年に開館した美術館です。第二次世界大戦中、志半ばで戦場に散った画学生たちの残した絵画や作品、イーゼルなどの愛用品を収蔵、展示しています。平成20年には第二展示館がオープンしました。



上田へ
GO!

「無言館」

Editor's Museum

窪島誠一郎さんと「小宮山量平の編集室」を訪ねるバスツアー

プラス 田んぼのソーラーシェアリングも視察!

2019年 6月 9日 (日)

松本合同庁舎バス停前8:20集合

8:30出発～夕方解散

※東北信などの参加者は現地集合も可能です。

※出発地に応じて途中ピックアップも相談に応じます。

会員：実費負担のみ・一般：実費+500円

実費：バスに乗る方4800円・乗らない方1500円

※詳しくは裏面をご覧ください。

バス定員
20名



Editor's Museum「小宮山量平の編集室」

上田市出身の小宮山量平氏が上田駅お城口近く「若菜ビル」3階で2005年7月に開館した「編集室」。15,000冊あまりの本が収蔵されています。

【申込み 問合せ】

090-4463-6182(くぼた) 090-4911-8209(まつもと) 信州自遊塾HP「講座申込フォーム」<http://www.jiyuiku.org/> or FAX 0263-77-5437 (一般の方は連絡先をご記入ください)



「無言館」館主 窪島誠一郎

1941年、東京生れ。印刷工、酒場経営などを経て、1964年小劇場「キッド・アイラック・ホール」を設立。1979年、夭折画家の作品を展示する「信濃デッサン館」を設立。1997年、戦没画学生慰霊美術館「無言館」を設立、その活動は野見山暁治とともに、2005年、菊池寛賞受賞。

主著に、『父への手紙』(筑摩書房)、『「無言館」の坂道』(平凡社)、『漂泊・日系画家野田英夫の生涯』(新潮社)、『高間筆子幻景』(白水社)、『戦没画家 襲光の生涯』(新日本出版社)などがあり、野見山暁治との共著『無言館はなぜつくられたのか』(かもがわ出版)がある。



エディターズミュージアム「小宮山量平の編集室」代表 荒井きぬ枝

小宮山量平さんの長女。今年で122年目という上田名物の老舗うなぎ屋「若菜館」の四代目女主人でもある。「小宮山量平の編集室」は、同ビル3階にある。

●小宮山量平 [こみやま・りょうへい]

1916年(大正五年)上田市生。東京商科大学(現一橋大学)卒業後、旭川での軍隊生活を送る。敗戦後1947年出版活動を志し理論社を創業、長年にわたって編集者として活動を続ける。

著書に「編集者とは何か」「子どもの本をつくる」(日本エディターズスクール出版部)「戦後精神の行くえ」(こぶし書房・共著)「千曲川」第一部～第四部(理論社)「昭和時代落穂拾い」「やさしさの行方」「20世紀人のこころ」(週刊上田新聞社)、「悠吾よ!」(こぶし書房)など。

1998年「千曲川」第一部で「路傍の石文学賞特別賞」を受賞。また、戦後出版界をリードした編集者としての功績により2001年信毎賞(信濃毎日新聞社主催)を受賞。

2012年4月13日、95歳の生涯を、静かに閉じる。



合原亮一 NPO法人上田市民エネルギー理事 自然エネルギー信州ネットワーク システム開発や太陽光発電の(株)ガリレオ代表取締役 有機栽培の水田2カ所 50kW規模のソーラーシェアリング実践中 「ドイツから学ぼう」第4回「環境・自然エネルギー・原発」パネリスト

●行程

8:20 松本合同庁舎バス停前集合

8:30 松本合同庁舎出発

◆ 田んぼのソーラーシェアリング

※無言館近くで、稲作とソーラー発電を同時に行う 新しい試みをしている合原さんの田んぼも視察します。

◆ 戦没画学生慰霊美術館 「無言館」

美術館見学後、窪島誠一郎さんのお話

道と川の駅「おとぎの里」にて遅めの昼食(各自)

◆ Editor's Museum「小宮山量平の編集室」

館内見学と代表の荒井きぬ枝さんのお話

17:30頃 松本合同庁舎着

●実費4800円の内訳

- ・バス代・有料道路・保険
3900円のところ塾から400円補助し、3500円
- ・「無言館」入館料1000円
- ・「小宮山量平の編集室」入館料300円

(バスに乗らない方は入館料+保険料 計1500円)

～これからの人間の生き方を考えよう～

信州自遊塾

<http://www.jiyujuku.org/>